

# 「保育内容総論」について

## — ソーマトロープ作製を通して —

前 川 頼 子

### A Basic Study on the Contents of Childcare

— Through the Creation of Thaumatrope —

Yoriko Maegawa

#### 1. はじめに

「保育内容総論」は、幼稚園教諭及び保育士養成課程の必須科目であり、保育の内容・方法に関する科目と位置づけられている。そして、この科目は養成課程において、「保育内容5領域」、「乳児保育」、「障害児保育」、「社会的養護内容」、「保育相談支援」などと同様の演習科目に位置づけられている。

授業のテーマは、保育の全体的な構造から、保育の内容を総合的に理解するものである。従って、著者は、「保育内容総論」という科目を、幼児教育保育学科（以下、幼教とする）へ入学して幼稚園教諭・保育士になるために必要な根っことなる授業と捉えており、シラバスには、「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」と関連付けて保育内容を総合的に理解することを目標として記載している。

授業の進め方は、幼稚園・保育所・認定こども園における保育の実態をよりわかりやすく事例をあげて伝えることから始める。著者は、幼保一体化施設での現場経験が長いことから、遊びの場面を中心に保育の実際を伝える事を使命と自覚している。特に、学生が将来幼稚園教諭や保育士として保育現場に臨んだとき、園児に様々なことに対する興味・関心を抱かせ、園児一人一人の成長を援助できるようになるには、保育内容を総合的に捉えると同時に保育の現場で実際に展開されていく保育の過程を詳細に知る必要があると思われる。このことによって、学生は「保育の楽しさ」と「やりがい」をより強く意識するようになると著者は考えている。したがって、「保育内容総論」という演習科目の教育目標を、「学生自らが保育者になりたいという意欲をより強く抱くようになる」こととしている。

なお、本授業は演習科目であるため1回生161名を4クラスに分割し、著者とF教授の2名の教員が2コマずつ担当するコラボレーション形式の授業であり、表1に示した授業計画によって

「保育内容総論」について

表1 「保育内容総論」授業計画 2012年度前期 火曜1限・水曜4限

回	月 / 日	曜日	クラス	教室	F 担 当	クラス	教室	著者 担 当
1	4 / 10	火 1	C	225	オリエンテーション	D	225	オリエンテーション
	4 / 11	水 4	A	121	オリエンテーション	B	121	オリエンテーション
2	4 / 17	火 1	C	223	保育内容の歴史と今目的～	D	222	保育指針と教育要領
	4 / 18	水 4	A	223	保育内容の歴史と今目的～	B	222	保育指針と教育要領
3	4 / 24	火 1	D	223	保育内容の歴史と今目的～	C	222	保育指針と教育要領
	4 / 25	水 4	B	223	保育内容の歴史と今目的～	A	222	保育指針と教育要領
4	5 / 1	火 1	C	222	グループワーク	D	223	保育内容とねらい
	5 / 2	水 4	A	222	グループワーク	B	223	保育内容とねらい
5	5 / 8	火 1	D	222	グループワーク	C	223	保育内容とねらい
	5 / 9	水 4	B	222	グループワーク	A	223	保育内容とねらい
6	5 / 15	火 1	C	223	発達過程と遊び	D	222	グループワーク
	5 / 16	水 4	A	223	発達過程と遊び	B	222	グループワーク
7	5 / 22	火 1	D	223	発達過程と遊び	C	222	グループワーク
	5 / 23	水 4	B	223	発達過程と遊び	A	222	グループワーク
8	5 / 29	火 1	C	223	保育所の日	D	222	幼稚園・こども園の1日
	5 / 30	水 4	A	223	保育所の日	B	222	幼稚園・こども園の1日
9	6 / 4	火 1	D	223	保育所の日	C	222	幼稚園・こども園の1日
	6 / 5	水 4	B	223	保育所の日	A	222	幼稚園・こども園の1日
10	6 / 12	火 1	C	223	0. 1. 2歳児の保育内容	D	222	3歳児の保育内容
	6 / 13	水 4	A	223	0. 1. 2歳児の保育内容	B	222	3歳児の保育内容
11	6 / 19	火 1	D	223	0. 1. 2歳児の保育内容	C	222	3歳児の保育内容
	6 / 27	水 4	B	223	0. 1. 2歳児の保育内容	A	222	3歳児の保育内容
12	6 / 26	火 1	C	223	中間まとめ・グループワーク	D	222	4歳児の保育内容
	7 / 4	水 4	A	223	中間まとめ・グループワーク	B	222	4歳児の保育内容
13	7 / 3	火 1	D	223	中間まとめ・グループワーク	C	222	4歳児の保育内容
	7 / 11	水 4	B	223	中間まとめ・グループワーク	A	222	4歳児の保育内容
14	7 / 10	火 1	C	223	今後の課題・グループワーク	D	222	5歳児の保育内容
	7 / 18	水 4	A	223	今後の課題・グループワーク	B	222	5歳児の保育内容
15	7 / 24	火 1	D	223	今後の課題・グループワーク	C	222	5歳児の保育内容
	7 / 25	水 4	B	223	今後の課題・グループワーク	A	222	5歳児の保育内容

演習を進めている。

ところで、梶原は、「子どもの発達過程に応じて、`ほどよく難しい教材。は、子どもが意欲的に様々な事象を理解しようとする発達過程での上で成り立つ保育のポイントである。学生が実際に作製する`科学遊び。は、教材研究の重要性を学ぶプロセスにおいて得る達成感の体感こそが重要」と述べている<sup>1)</sup>。

そこで、「保育内容総論」の第12回目の演習に`ソーマトロープの作製。を取り入れ、そこで著者が体験したことを4歳児に適した教材開発の視点から考察したい。

## 2. 研究の目的・方法

幼教1回生に、「保育内容総論」の授業を通して、保育内容を総合的に理解させるためには、学生に将来保育者になりたいという強い意欲を持たせる必要がある。そのための手段の一つとして、学生に、適切な教材を製作し、活用することの重要性を気づかせることが考えられる。

学生に教材開発の重要性を体感させるには、教材を用いた保育現場の様子をありのままに学生に伝えることと保育現場で用いられる教材を学生に実際に作製させて教材の果たす役割などを理解させることが有効であると思われる。

そこで、著者が滋賀短期大学幼教でおこなった事例をソーマトロープの作製を中心に紹介し、この教材作製が、保育における基礎科目である「保育内容総論」の授業をとおして、学生に保育の本質を理解させるうえでの効果について考えてみたい。

本授業研究の目的は、学生が保育内容を総合的に理解することである。また、学生に将来保育者になりたいという意欲を喚起するために、適切な教材開発の製作と活用の重要性への気づき、教材という物的環境の設定を含める実践の重要性を体感させることが目的である。

ソーマトロープの作り方の説明は、教科書<sup>2)</sup>の提示のみとし、出来るだけ自主的に作製することを促した。しかしながら、2コマという限られた演習時間内に作品を完成させる必要があるため、学生からの個別の質問には対応した。また、学生全員が作品を完成させる達成感を味わわせることも必要である。そのため、適宜完成に向けてのアドバイスおよび完成品での遊び方の説明、さらには、保育現場で用いる教材の果たす役割などを現場の実態をありのままに事例を挙げて伝えることもおこなった。

更に、学生がこの演習を通して保育に対する意識がどのように変化したかを明らかにし、授業の改善に資するために、学生に対して、入学時に「進学動機」と「保育内容に対する意識」、授業の進行途中において「講義内容に対する興味」に関して質問用紙を用いて調査をおこなった。

## 3. 学生の意識調査の分析と考察

「保育内容総論」の授業は、保育の現場である幼稚園、保育所、幼保一体化施設の共通点と相

「保育内容総論」について

違点の理解から始める。続いて、「保育内容の概念」や「保育の本質」の講義を通して、保育所の機能、保育者の役割や使命についての知識の確立を図る。なお、学生が意欲を持ってこの学習に取り組ませる為に、保育の楽しさややりがいをより強く感じ取ってくれることを狙って、保育の展開の実際や保育現場の実態を演習形式の授業として多く取り入れることにした。

入学時に、幼児教育保育学科への意欲を調査した結果、図1に示すように、「知識技術の習得・資格が欲しい」を強く思うものが特に多く、逆に「他の道が探せず何となく」も何人もいる。これは、大学全入学時代の影響と言える。

また、図2に示すように、保育内容5領域に対する興味についても、具体的な遊びを例にとり学生が体験する中で5領域の占める割合がどれも同じ程度に興味を持っている。

また、演習を交えての保育内容では、図3に示すように、手遊び・ピアノ・絵本の読み聞かせ

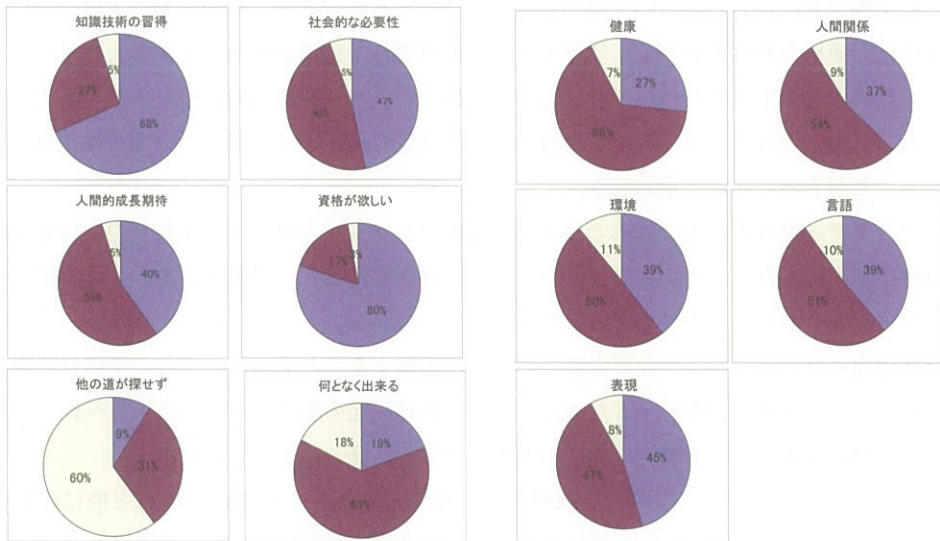


図1 幼教への進学理由, 保育者をめざす意欲

図2 保育内容5領域に対する興味

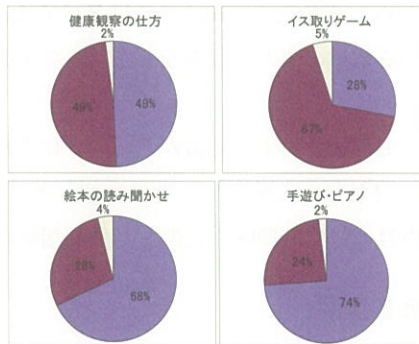


図3 演習後の保育内容に対する興味・意識

が圧倒的に興味・意識を高く持って取り組んでいる。これは、体験することで、保育しているという実感を味わい、達成感につながる内容であると考えられる。

#### 4. 「ソーマトロープ」の作製

保育の現場で、園児（4歳児）の心身（特に手と思考）の成長を促すための一つとして、ソーマトロープの作製がとりいれられている。

この場合、保育者が完成品を子ども達に見せないで製作に入った場合、ほとんどの子ども達は、何をどの様にすればよいのか解らず作業に取りかかれぬ。実際保育現場で、4歳児にソーマトロープを作製された事例によると、最初に園児にソーマトロープの完成品を見せて、『どうすればこの鳥をカゴの中に入れることができるかな』と子どもに問いかけて遊び方を示した後、順序立てて説明しながら制作に入ることがなされている。すなわち、切り取り線を丸ではなく黒く太い四角にすることで、4歳児にとって切る作業が「ほどよい、難しさとなる。全員がきれいな四角に切り取ることは出来ないが、ほとんどの子どもが「ここを切る」と意識しながら、ハサミを動かしていく。また、製作の途中で、子ども達の間から、『次は二つの絵を貼る』、『次は棒を挿す』という発言も飛び出してくると報告されている。園児にソーマトロープを作製させる場合、最初に完成品を示し遊び方を説明しておく必要がある。そうすることで、子ども達は完成品に向かっての一つひとつの作業を理解し手動的に動かせるようになり、こどもたちの思考の発達に効果をもたらすと考えられている。

一方、梶原が述べているように、将来幼稚園教諭や保育士となる学生に、4歳児にとって「ほどよく難しい教材、作りを体験させることが大切であることから、幼教の学生にソーマトロープを作製させた。ただし、学生には始めに完成品を見せないで制作に取り掛かせた。ところが、これから製作しようとする完成品の具体的なイメージが描けず、作業に取り掛かることができない学生の姿が多く見うけられた。ソーマトロープを作製するためには、どのような道具と材料が必要であるか、また、どのような作業が必要となるかを順序立てて考えることが困難であったように観察された。

これに対して、目的（完成品）を頭の中にあらかじめイメージできていた学生等は、一つ一つの作業が、完成品を現実にもたらすために必要な作業であることが認識でき、『次は、二つの絵を貼る』、『次は棒を挿す』など具体的な発言が聞かれた。

以上のことから、4歳児の心身（特に手と思考）の成長を促すために必要な支援の在り方について考えられた。このように難易をつけて物作りの教材を開発していくことは、子どもの心身の段階的形成を援助する上で重要なことであることを再認識した。そして、この演習で学んだことを将来保育の実践の場で活かしてくれることを確信した。

表2に示した個別に指導が必要な学生には、参考となる作品を実際に手に取らせ「遊ぶ魅力」

「保育内容総論」について

表2 個別指導の内容

氏名（性別）	指導を受けた原因	指導内容	結果
A（男子） B（女子） C（女子）	描いた位置が悪く、目的（アニメ）を果していない 理解力の不足	モデル作品を見せて、修正のポイントを丁寧に示す。	理解して再提出し、アニメーションの特徴が示された
D（女子）	割り箸2本で回らない	教科書を示して原因を追及	再提出し、回った
E（男子） F（男子）	輪郭が薄い。又は濃すぎる 表現力が乏しい	モデルの作品を見せ、具体的に示し改善を促す	改善した
G（女子） H（男子）	提出期限、大幅な遅れ	提出期限を本人に考えさせ 反省レポートを添えて提出	G：3枚提出単位取得 H：提出なく、不可

を見つけ感じ取った後に、もう一度作品作りにチャレンジする機会を与えた。学生に、「もう一度頑張ってみよう!」、「今度はできるかもしれない」という、再度挑戦しようとする意欲を引き起こさせることが目的である。この場合、学生の主体性を尊重するねらいから、提出期限は学生本人に決めさせることとした。

表2の学生G（女子）は、「明日提出します」と言った。これまでの彼女の目に余る怠慢な授業態度からは、予想しがたい発言であった。担当教員としては、歓喜に高ぶる気持を冷静に抑えて、3日後に「より完成度の高い作品にレポートを添えて提出するように」と期待していることを伝えた。その結果 図4の作品3を含む3種類のソーマトロープとレポートが期日までに提出され、個別指導が活かされた。

## 5. お わ り に

本授業研究を通して未来ある若い学生には、どのような苦手な事でも様々な方法を模索しながら根気強く指導して、再挑戦する機会を与えることにより、努力する可能性を秘めていることを確認した。学生は困難をクリアした時、初めて自信に繋がる体験となる。「はじめに」の結びに、梶原の「ほどよく難しい教材」は、子どもが意欲的に理解しようとする上で成り立つ保育のポイントである。という教育原理の原点ともいえる考え方を引用したが、大学生にも通用する教育の原点であることを再確認した次第である。

「ソーマトロープ」を教材としたことから、2つの単純な絵を回すことにより、新たな動きが生まれる不思議な科学的な原理を学び、学生と共に創造性を深める教材開発の実践に繋がる体験をした。学生一人一人が、何かをデザインしようとする時、なかなか思いつかない、そのような場面において学生同士がアイデアを出し合い、作品を見せ合うことで、より楽しく意外性のある作品にするための要因に気付き、最後に工夫された作品が見られ、これまでに見られなかったやる気のある授業が展開された。

作品 1



作品 2



作品 3



図4 ソーマトロープの作品

また、表2に示した個別指導（補講）を受けた学生の場合、演習時間外に自宅や学生ホールなどで製作に取り組んでいたことも明らかになった。特に、表2の学生C（女子）には再々実施した補講では、三度目にこれまで全く想像することも不可能なほどの嬉しく豹変した姿は忘れられない。大学教師として日の浅い著者にとって、まさに驚愕の至りであった。これまでのどの学生にも見られなかった斬新な創造性と、丁寧な表現力を目の当たりするに至ったのである。

「保育内容総論」は、保育内容の全体構造を理解するための授業であり、「保育内容5領域、健康・環境・人間関係・言語・表現」を総合的に捉え、学生たちが身につけた知識と技術を保育現場で実践を可能とする指導力に高めていくことである。そのためには、「心を躍らせ・身体を動かし・頭を働かせ・楽しく学ぶ」ことで「保育の本質」を伝えていく、特に「保育内容」をどう分析して日々の計画に織り込み、子ども達の心身の成長・活動を育む具体的な経緯として実際に知らせる必要があると考える。

## 「保育内容総論」について

今後は、学生が保育をしていく上での基本的な実践力を身につけるように「教育実習」「保育実習」の場において、「ソーマトロープ」が教材開発として学生がチャレンジできる授業を展開・研究に取り組む責務を感じている。

## 引用文献

- 1) 岸井勇雄 監修 上野恭裕 編著 (2008) 「保育内容総論」(保育出版社), p.126-129  
梶原郁郎 「ソーマトロープ(2コマアニメ)を作るー付属幼稚園からの報告」
- 2) 岸井勇雄 監修 上野恭裕 編著 (2008) 「保育内容総論」保育出版社